

園長だより 「架け橋」 NO.10

2月は「如月（きさらぎ）」と言います。「如月」には、「寒いので衣（きぬ）を更に重ねて着る」とか、「暖かい陽気が更にやってくるころ」という意味があると言われています。

さて2月は、「逃げる」と言いますが、月日が経つのは本当に早いものです。3日が節分で、翌日が立春になります。まだまだ厳しい寒さが続きますが、「春」という言葉を見たり耳にしたりするだけで、何となく暖かさを感じホッとした気持ちになります。しかし、1年中で最も寒い時期であり、雪もよく降ります。それだけに、気を引き締めた状態で保育をし、様々な活動を進めていきたいと思ひます。

思い出の詰まった作品！

1月30日（月）に作品展を行いました。なかなかの大作揃いでビックリされたのではないのでしょうか。材料集めでは大変お世話になりました。

先日、一人の年長さんが泣いていました。日頃、涙を見せない子なので、どうしたのかなと理由を尋ねてみると、「一生懸命作った獅子舞の体が壊れたの！」という答えが返ってきました。一生懸命作り、先生にも褒められて、自分でも満足していた思い出の作品の一部が壊れてしまい、悲しくて泣けたのです。

大人からすると、大したものに見えなくても、子ども達にとっては大切な思い出が一杯詰まっていることがあります。子ども達のどのような作品も「こんなもの！」と言って、粗末に扱ったり捨てたりしないようにしてください。よろしくお願ひいたします。

絵を描くことの得意でない子も、ねばり強く頑張って一枚の絵を仕上げたのです。絵の出来栄えよりも、仕上げるまでの苦勞、物の見方や捉え方、色の出し方や塗り方など、一枚の絵の中には心の成長が刻まれているように思ひます。そのような作品を整理して大切にしまっておき、一生の宝物にしてあげてください。素晴らしい財産になると思ひます。

音楽に秘めた力！

クラシック愛好家の知人が、プロとアマの演奏の違いについて面白いことを話してくれました。すなわち、「演奏家が苦惱し聴衆が陶醉するのがプロであり、演奏家が陶醉し聴衆は苦惱するのがアマである」というのです。

この考えが正しいかどうかは分かりませんが、世界的ソリストとして活躍しているプロの厳しさは聞きしにまさるものがあるようです。フランスの名ピアニストとして知られているコルトーは、「1日練習せざれば自分に、2日なら評論家に、3日なら聴衆に伝わる」と述べています。弾くも楽しい、聴くも楽しい、そんな純粋な喜びに周囲を誘（いざな）うことのできる演奏家は稀なのでしょう。

辻井伸行さんのお母さんは、その著「のぶカンタービレ！」の中で、聴衆の前で弾くたびに人として音楽家として成長していくわが子の姿を書いています。まさに、音楽に秘めた力の大きさを感じます。そんな力が、本園の音感教育を通して身に付けばと思うこの頃です。



地震への備え！

東海地方の今後30年間に、マグニチュード8以上の巨大地震が起こる確率がかなり大きいと言われています。家庭での対応も重要です。ぜひ、保護者の皆さんにもいざという時の安否の確認方法や地震に対する備えをしていただきたいと思います。具体的には、地震が起きるまでに行っておくことと地震が起きた時に行くことの両面があるように思ひます。

いつ大きな災害がやってきてもいいように、平常時からの準備と万全な対策を講じておきたいものです。

